ＭＥＯＳ（ミクロゾーム・エタノール酸化酵素系）

もう一つのアルコール分解酵素群の MEOS では、習慣的な飲酒を続けていると、特にチトクローム P4502E1(CYP2E1)と呼ばれる酵素が増えてきます。習慣的に飲んでいるとアルコールに強くなって飲めるようになる主な理由は、脳での耐性が進んでアルコールが効かなくなるためですが、もう一つの理由がこの CYP2E1 が増えてアルコール代謝が速くなるためとされています。
（ｅ―ヘルスネット　アルコールの吸収と分解より）

上述のように、チトクローム P450 がもう一つのアルコール分解酵素の代表として紹介されている説明が多い。つまりアルコールをアセトアルデヒドに分解する、もう一つの酵素が増えるということ。
お酒を飲めるが弱いタイプの人が、飲酒を続けてお酒に強くなるには、アセトアルデヒドを分解する酵素も増える必要がある。
ブログの文末で紹介している「名医が教える飲酒の科学」では、「アセトアルデヒド脱水素酵素も多少誘導される」との記載がある。
つまりチトクローム P450 以外のＭＥＯＳ（ミクロゾーム・エタノール酸化酵素系）が増え、アセトアルデヒドを分解する手助けをする。
このことをふまえて、ブログ中のアルコール分解経路を作図した。